
夢の住人

ことは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の住人

【Nコード】

N2883P

【作者名】

ことは

【あらすじ】

「君は

独りなの？」

そんなことを問う男の子とあってから数年――

『世界を救う少女』・ルーラーは成長したのか？

自分から『彼女の世界』にニンゲンを巻き込む。

仮面を被る女と

道化を演じる女

そして、『彼』をいつまでも想うルーラー。
…これは、彼女の『賭け』でもあった。

プロローグ

笑っている。

今日もあの子は笑っている。

でも、それは『偽り』だということを私だけは知っている。

だから私は、嘲笑ってやった——…

プロローグ ユメの中でご挨拶

気がついたら、私は独りだった。

いままで…いままで、必死に取り繕ってきたのに…

『それ』はあっさりと壊れてしまった。

——ダメだ。考えるな

「こんにちは」

——ッ!!!?

「そんなに驚かないで…?」

——だ、誰だ…ッ

「私は——」

汗ばむ手のひらにさらに力を込める。

もしもの時にそなえて

「『世界を救う少女』よ」

それはなんて軽やかな笑顔だったのだろう。

一振り目 『世界を救う少女』と『少年Ⅱ彼女』

「……ッ!!…夢…?」

ベットから起き上がり、周りを確かめてみる。

机——押入れ——時計——ん…8時32分…

「あ——ッ!!」思わず叫び声をあげる「学校!!遅刻するッ」
結局、学校についたのは一時間目が始まってからだった…

「おはよー柚亜。今日も遅刻？」

そういつてカラカラと笑うのは、私の親友、瀬名亜梨亞せな ありあ

名前も可愛いけど、顔も可愛い。

性格容姿共に二重丸の亜梨亞はクラスでも人気がある。

ショートカットの髪にはウェーブが掛かっていて、くりくりした目は子リスみたいだった。

…それに比べて、私という奴は…

一応女の子で、胸もそれなりにある。

でも、髪は中途半端に伸びていて、男とばかりつるんでいるせいか、口調は男勝りで負けず嫌い。

おまけに目は徹夜明けで熊ができているしまつ…

「はぁ…」思わずため息をつく。

私の顔を心配そうに覗き込む亜梨亞に、思わず頬を赤らめてしまう。

「どうかした…? 悩みとかあるんだったら、きくよ?」

「えっと…?」

悩みは特に——あっそういえば…!

「柚亜？」

いや…でも、信じてもらえるか…？

夢の中で、『世界を救う少女』と名乗る、幼稚園児ぐらいの女の子とあって会話をした——しかも、見たこともない子供と……

「それって、私のこと？」

「！！」

おかしい。

なんだ…これ…空気が…いや、時間が止まってる！？
さっきまで聞こえていた教室の喧騒は音一つなく止み、目の前の亜梨亞も心配そうな顔をしたままだった。

「……。お、おい……。ありあさくん…？」

やっぱり…

私が独り納得していると、後ろから盛大な笑い声が聞こえてきた。

「あははははッ。…やっぱりニンゲンは、愚か」

振り向きざまに右足を振り上げるそしてそれは「おっと…ッ」

「なっ！」よけた…?! 私の右蹴りを!?!……

「ねえ」それはまるで独り言のようにも聞こえる口調だった「罪を犯したの」

開いていた窓から一陣の風が吹き込んで、綿菓子のようなふわふわの髪がなびく。

…甘い…匂い…、リンゴ…？

———そう思ったのもつかの間、次に目を開いた時には見知らぬ地にいたのだった……

「嫉妬と傲慢の罪を、ね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2883p/>

夢の住人

2010年12月4日10時59分発行